

令和2年度幸田小学校学校教育診断アンケートの集計結果について

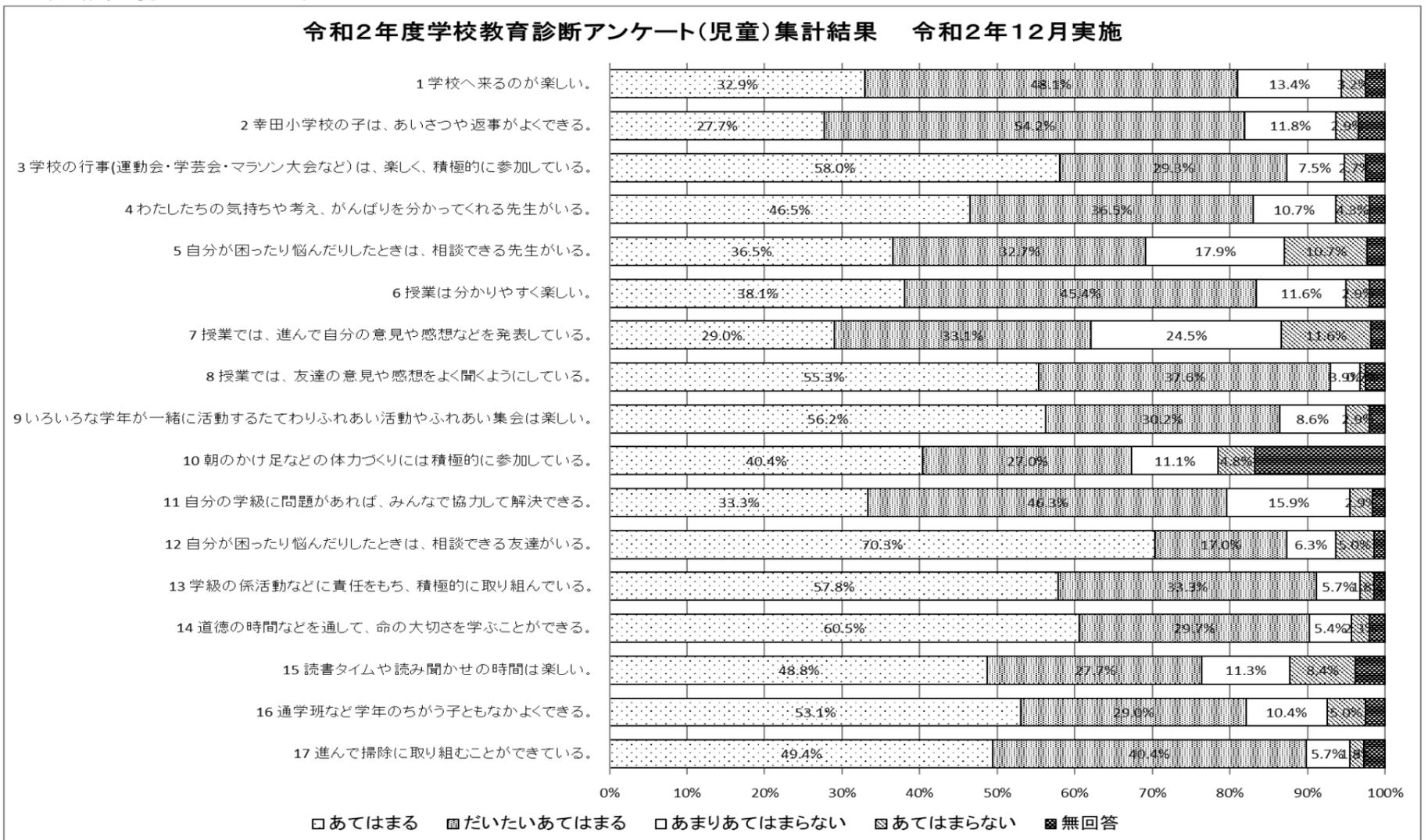
令和3年3月3日

12月にお願いをして実施いたしました幸田小学校「学校教育診断アンケート」の集計結果を、下記の通りお知らせいたします。ご多用のなか、ご協力有り難うございました。この結果をもとに、より充実した教育活動が展開できるよう改善できることから取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

1 集計結果一覧グラフ (保護者)



2 集計結果一覧グラフ (4～6年児童)



3 調査結果から見た傾向や特徴 ※ () 内の数値は、昨年度との比較

楽しい学校生活

「1 学校へ来るのが楽しい」と答えた児童は81.0% (-2.3%) で若干下がったものの、「1 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」と答えた保護者は84.5% (+0.1%) で微増となっています。コロナ禍における臨時休業や様々な行動が制限される中で、この数値で収まったことに、授業や友達と一緒に過ごす学校生活の大切さを認識したのではないかと考えます。半面、当てはまらないと答えている児童、保護者は何らかの不安を抱えていることが分かります。ふれあい活動等を通して学校生活が楽しいものになるよう引き続き取り組んでいくとともに、一人一人に寄り添った指導を心がけていきたいと思ひます。

学ぶ意欲を高める授業

「2 子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」と回答している保護者は78.4% (-2.2%)、「6 授業が分かりやすく楽しい」と回答している児童は83.5% (-0.6%) と、保護者、児童ともに昨年度より減少しています。ペアやグループ等の話し合いの形態が制限され、友達とのかかわり合いの授業が少なかったのが原因と考えられます。一方、「8 授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている」と回答している児童が93.0% (-0.6%) と引き続き聞く姿勢が大変よく身に付いていることが分かります。また「7 授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している」と回答している児童は62.1% (+6.5%) で、昨年度より割合が増加しているのは良い傾向と捉えます。これからも授業形態を工夫し、児童が自分の考えに自信をもって表現できるように支援していきたいと思ひます。

「11 学校は、一人一人に応じたきめ細かな指導を工夫している」と回答している保護者は58.2% (+2.0%) と2年連続で増加していますが、全体的にはまだまだ低い割合となっています。指導方法を見直し、さらに丁寧な子ども理解と個別指導に努めていきたいと思ひます。

基本的な生活習慣

「2 幸田小学校の子は、あいさつや返事がよくできる」と回答した児童は81.9% (-2.1%) と昨年度より減少となりましたが、全体的な意識は高いといえます。一方「3 子どもは、進んで家族や地域の人たちにあいさつしている」と回答している保護者は65.8% (-1.8%) であり、子どもの意識と保護者の意識との違いが顕著となっています。登下校時のあいさつは、声の大きさも含めてまだまだ十分とは言えないと本校の職員も感じています。マスクをしている中では表情が伝わりにくい部分もありますが、登下校中や地域でのあいさつに対する児童の意識を高め、相手に伝わるあいさつのできる児童を育てていきたいと思ひます。

一人一人を大切にされた教育活動・いじめへの対応

「12 自分が困ったり悩んだりした時は、相談できる友達がいる」と回答している児童は87.3% (-3.5%) と高い割合ではあるものの、減少しています。これは臨時休業や様々な制限のある学校生活によって子ども同士のかかわり合いが減っていることが起因していると考えます。一方「4 子どものことについて、先生に相談できる」と回答している保護者は74.4% (+1.9%)、「5 自分が困ったり悩んだりしたときは、相談できる先生がいる」と回答している児童は69.2% (+3.9%) と、保護者、児童ともに増加しています。引き続き児童からも保護者からも信頼される関係を築き、児童が悩みや苦しみを一人で抱え込むことなく、気軽に相談できる学校の雰囲気作りや体制作りを努めていきたいと思ひます。

「6 先生は、子どもの能力や意欲を適切に判断し、認めてくれている」と回答した保護者は84.5% (+1.6%)、「4 わたしたちの気持ちや考え、がんばりを分かってくれる先生がいる」と回答した児童は83.0% (+2.

1%) で、保護者、児童ともに増加しています。行事が少なかったことが、逆に子どもと向き合う時間をしっかりと確保できた結果と捉えます。しかし、認められていない、分かってもらえていないと感じている児童も少なからずいることが分かります。児童一人一人の良いところを見つけ、ほめて認める指導を大切にすることで、児童の自己肯定感を伸ばしていきたいと思ひます。

「8 学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる」と回答した保護者が71.2% (-6.4%) と、昨年度より減少していますが、無回答も11.1%あり、今年度の場合は判断しにくい設問であったともいえます。しかし、今後もいじめのアンケートや個別面談の実施、いじめ・不登校対策委員会や週1回の情報交換会の実施等、これまでの活動を着実に続けていきたいと思ひます。また、日常生活における児童の様子の変化にいち早く気付き、保護者や児童から信頼される学校・学級づくりに努めていきたいと思ひます。

開かれた学校

「9 学校は、教育目標や教育方針をわかりやすく伝えている」と回答した保護者は、76.3% (-1.9%) と減少となりました。また、「16 学校は、授業参観を通して学校の様子が分かるようにしている。」と回答した保護者は、45.6% (-38.8%) と大幅の減少となりました。4月当初に教育計画全般について教育計画書を配付しましたが、コロナ禍のためPTA総会や授業参観を実施する事ができず、直接説明する機会や学校の様子を見ていただく機会がなかったことが大きく影響していると思ひます。今後もホームページや通信等で学校の教育活動をお伝えする機会を増やすとともに、保護者のより一層のご理解とご協力を得られるよう努力をしていきたいと思ひます。

心の教育

「12 学校は、道徳や読書・読み聞かせを重視し、豊かな心を育もうとしている」と回答した保護者は73.7% (-9.9%)、また、「15 読書タイムや読み聞かせの時間は楽しい」と回答している児童の割合は76.4% (-10.8%) と保護者、児童ともに1割程度の減少となっています。読み聞かせが1度も行われなかったことが影響していると思ひます。逆に、読み聞かせの時間をとても楽しみにしているとも言えます。

「17 進んで掃除に取り組むことができている。(児童)」と回答している児童が89.8% (-0.5%)、「13 学級の係活動などに責任をもち、積極的に取り組んでいる。(児童)」と回答している児童が91.2% (+0.7%) と割合として高く、学級内において児童一人一人が役割を持ち、責任を果たしていることも結果として出ています。しかし、「11 自分の学級に問題があれば、みんなで協力して解決できる。(児童)」と回答した児童は、79.6% (-1.2%) と少し割合が減少しています。教師の見守りのもと、児童が自分たちで問題を解決していけるたくましさ育てたいと思ひます。

「9 いろいろな学年と一緒に活動するたてわりふれあい活動やふれあい集会は楽しい」と答えた児童は86.4% (-0.2%) と高い割合となっています。今年度はふれあい集会は実施できませんでしたが、ふれあい活動を通して異年齢集団のかかわりを大事にしてきた成果と言えます。「16 通学班などの学年のちがう子どももなかよくできる」と回答した児童は82.1% (-8.3%) となりました。これは感染症対策として黙って登校する事も影響していると思ひますが、今後も、通学班等の日常の活動において良好な人間関係を保つための適切な指導と支援を続けていきます。

体力づくりへの取組

「17 学校は、子どもの体力や運動能力の向上を目指した取り組みをしている」と回答した保護者は、72.0% (-6.0%)、また、「10 朝のかけ足などの体力づくりには積極的に参加している」と回答した児童も、67.4% (-12.2%) と、大幅に減少しています。コロナ禍の中でも、体力づくりの時間と場所を工夫して確保し、児童の体力向上に努めていきたいと思ひます。